

おじいさんの行動

東京都 雙葉中学校 2年 横内 倅

「小さな親切」。それは、一見ちょっとしたものです。しかし、親切にされた人にとっては、気持ちをうれしくしてくれたり、いろいろなことについて考える機会をくれたりする、「とても大きな親切」となるのです。私は最近、そのことを初めて実感したできごとがありました。

ある日の夕方、学校から帰っていた途中のことです。私は、駅はすいているし、人に迷惑をかけなければ大丈夫だろうと思い、大好きな小説を読みながら階段を下りていました。そこに、前から知らないおじいさんが上がってきました。私は、すれちがう直前におじいさんのことに気づき、あわててよけました。その直後です。おじいさんが私の肩をぽんっ、と叩いたのです。急いでふり返りましたが、おじいさんは決してこちらを見ませんでした。私は、なぜか恥ずかしくなり、急いで階段をかけ下り、走って家まで帰りました。

私は、知らない人に肩を叩かれるのはもちろん初めてだったので、家に帰った後も、そのできごとで頭がいっぱいでした。自分の部屋でずっと考え込みました。なぜ、私にあのようなことをしたのかということ。最初に思いついたのは、おじいさんは私を歩行のじゃまだと思って叩いたということです。もしそれが本当なら、と考えると、なんだかふつつつと怒りがわいてきました。私はおじいさんをよけたのに、なぜわざわざ叩くようなことをしたのだろうと、思いました。

しかし、あの瞬間をもう一度思い出すと、私は勘違いしているのでは、と思うようになりました。あのおじいさんの柔らかくやさしい顔、温かかった手の感触。そして、前から歩いてきた幼い女の子とそのお母さんを思い出しました。そう、おじいさんは私に、「歩きながら本を読んでいるとぶつかるよ、危ないよ。」と遠回しに伝えたかったのだと気づきました。人にぶつかると、どちらかがけがをしてしまうかもしれない。

おじいさんの行動は、通行人の方々のことも、私のことも心配しての行動だったのだと思います。そう考えると、自分の、まわりをよく見ていなかった行動をはずかしく感じ、申し訳なかったという気持ちになりました。その一方で、他人の中学生のことも見てくれている、おじいさんのようなお年寄りの方々がいるということ、そのような地域に私は住んでいるということを初めて知り、うれしく、ありがたいなと思いました。

今も、あたりまえのように歩きスマホなどが町中で見られますが、今私はそのような人々に声をかけたり、注意したりすることがどうしてもできません。しかし、時間はかかっても、自分のまわりをよく見ることのできる、自然に「小さな親切」をすることのできる人になりたいと思っています。おじいさんのことを心の片隅に置いて、日々を過ごしていきたいです。